



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第45号

2022年1月7日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

かたはSPスピリット(=学生実行委員会) 大活躍！！

今年の「冬休みわくわく算数教室」は、その運営を“かたはSPスピリット”という学生実行委員会のメンバーが大部分を担ってくれました。「質が高い」と呼び声の高い片葩小の「わくわく算数教室」ですが、その開催には人数・質ともに学生さんの力が欠かせません。毎年、学生さんを集めることにとっても苦勞をします。また、入れ替わりの激しい学校現場の中で、「例年通り」の開催を維持することもとても大変です。そこで、「運営を学生さんにやってもらうことはできないだろうか？学生にはサークルという文化があるので、そんな形で次へ次へと繋いでいってもらってはできないだろうか？」という中村コーディネーター発案のもと、今回、試行という形で“スピリット”が発足しました。

スピリットのメンバーは、わく算を経験したことのある有志で構成されています。今回集まってくれたメンバーは、とにかくすごかった。なんといっても熱量がすごい！やる気がすごい！有志といえど、まさかここまで自分たちで動いてくれるなんて……と、中村コーディネーターも私も驚きでした。わく算開催前に、メンバーだけでリモート打ち合わせを何度も行ってくれました。「当日までにどんな準備が必要か」「誰がいつまでにどんな仕事をするのか」「当日の司会は誰がどんなことに気をつけて行うのか」「座席表の作成には何に気をつけなければならないか」何度も打ち合わせをしてくれたおかげで、コロナ禍プラス学生さんの短い冬休みにも関わらず、“今まで通り”のスムーズで質の高い「わくわく算数教室」を開催することができました。初めての運営、しかも試しの実行委員会だったにも関わらず、今まで通りの質を維持できたことは、今回のメンバーの熱量と力量のおかげ以外何ものでもありません。本当にありがとうございました。

今回の運営にあたり、スピリットメンバーはどんな学びを得ることができたのでしょうか。私もぜひゆっくり聞いてみたいと思います。それぞれにとってもよい学びがあったのではないかと思います。その学びは必ず将来に繋がってくるはずです。教員採用試験でも、その経験を、学びを、生かすことができると思います。(今や学校ボランティアをしていることは当たり前のこの時代。大切なのは、「そこでどんな学びをしたか」ですから……) 学生さん同士でもぜひ聞いてみてください。「経験に勝る学びはない」とよく言いますが、今回スピリットメンバーはまさにそれを実感できたのではないかと思います。今回のスピリットメンバーの活躍を見て、「自分も挑戦してみたい！」「やってみようかな？」と思った方は、来年度ぜひ挑戦してみてください。「経験に勝る学びなし」です。

そして、「わくわく算数教室」を無事に終えられた今、スピリットメンバーはもう一つの大仕事「ツナぐ」に向けて、始動してくれます。今までも「質の高い学生が質の高い学生を連れてきてくれる」と言われてきました。今回の少数精鋭、最高のメンバーが、次の世代へと最高の形で「ツナいで」くれるはずです。(メンバーの「運営」という大仕事を間近で見て、期待感がどんどん膨らんでいます！) わく算開催期間中にも、来年度スピリットとして活動してくれるメンバーを探して、声をかけてくれていました。これができるのが「学生の力」なのです。今回頼もしい“スピリット”という新たな学生文化が立ち上がった今、これまで以上に発展したSP活動に、「わくわく算数教室」になっていくのではないかと、今からワクワクが止まりません！皆さんの活躍を、これからも応援&期待しています。



←中村コーディネーターが作ってくださったカッコいい席札。これだけでも身が引き締まりますね。朝のSP打ち合わせ会でも、スピリットメンバーは控え室前方のこの特別の席に座って司会をしました。茂木SPは、「子どもの前で話すのとまた違った難しさがありました。」と話していました。伝える人と内容が変われば、「伝え方」もまた変わります。現場でも、大人に向けて話す機会はたくさんあります。とてもよい経験だったと思います。

今までわく算に参加したことのある皆さんだからこそ、現役の大学生だからこそできた“改革”。今回、「SP活動記録用紙」の提出方法をより“参加学生が使いやすいように”変えてくれました。今回は試験的に行いましたが、参加したSPさん、どうだったでしょうか。SPアンケートも作ってくれたので、回答して今後に繋げてもらえたらと思います。この「SP活動記録用紙」の内容や提出方法なども、かなりいろいろなことに気をつけて、考え抜いて作ってくれました。「前例がないことをやる」のは大変だったと思いますが、それがまたよい学びになったかと思います。「ICTを取り入れた教育」「GIGAスクール構想」コロナウイルスの影響で、より一層進化のスピードが速くなった学校現場。変化への対応力、新しいものを見極める力も教員に求められています。



←今までは中村コーディネーターが作ってくださっていた、座席表。座席表はスムーズな運営に欠かせません。座席表があるから、100名ほどの算数教室も定刻通りに始められ、学習の時間を確保することができます。実は、座席表の作成はかなり配慮が必要な仕事です。大学2年生の二澤SPは「座席表の作成がこんなに大変だとは思いませんでした……」と呟いていました。年末年始、大学やプライベートに忙しい中、責任感をもってきっちり期限通りに作成してくれたスピリットメンバーのおかげで、今回も「今まで通りのわく算」を実現できました。



司会も行う中で、他のSPのサポートをしたり、時間を気にして活動したりしてくれるなど、多方面で活躍してくれたスピリットメンバー。子どもとの関わりはさすがでした。ウィークリーSPを経験している人が多いのもありますが、今までのわく算をよく知り、子どもたちのことをよく分かってきていました。なかなか他のSPさんを見る余裕はないかもしれませんが、同じ机で指導をしているSPさんがいたらぜひ参考にしてみてください。みんなそれぞれに試行錯誤して、相当な工夫をしてくれています。中でもスピリットメンバーの工夫や関わり方は秀逸です。